

<今日の説教のポイント 使徒言行録8章14～25節>
ペンテコステ後に起こった出来事から聖霊について考えます。

①フィリポのしるしと奇跡に驚いて受けた洗礼とその信仰

8章前半では、フィリポがサマリアで行ったしるしと奇跡の素晴らしさが報告されていますが、何か妙です。多くの人々がそれを見て洗礼を受けた中に魔術を使うシモンもいたのはいいのですが、彼の関心はその後もフィリポのしるしと奇跡にありました(13節)。

②二人の使徒が遣わされた意味 真っ当な信仰を持つために

そこへ使徒が遣わされます。アンティオキアで一般信徒によって信仰者が大勢起こされた時も同じです(11:22)。福音を受け入れた後は、その信仰が正しく成長して行くことが次の課題です。そのために使徒ペトロとヨハネが遣わされたのです(マタイ28:20)。

③聖霊はまだ降っていなかった？ どういうこと？

サマリアの人々には聖霊がまだ降っていなかった(15-16)？ どういうことでしょうか？ 聖書には、ペトロとヨハネが「**聖霊を受けると人々のために祈り**」(15)、「**人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた**」と記されています。ここで、奇跡やしるしを行うことができるようになるといったことだけを考えたら、この後のシモンと大差ありません(18-19)。「使徒が来て、手を置き、そして聖霊が与えられた」 — それは、奇跡やしるしだけを欲する利己的な信仰ではない、主の教会につながって歩み出す信仰が開始したことが示されているのです！

④聖霊は私の所有物ではない！ 信条では聖霊は教会の項目で。

聖霊は、私が所有でき、それによって私がなにか不思議を起こせるようになる程度のモノではないのです。聖霊が私の下にあるのではなく、私が聖霊なる神様の下にあるのです。使徒信条では、聖霊は主の教会と関係する所で告白されています。主の教会に繋がる中で、聖霊なる神様によって私たちの信仰は深められて行くのです！